

図書館だより No. 2

平成 29 年 5 月 26 日発行

来週末は体育大会。各競技の練習や応援合戦の練習にもみなさん力が入ってきましたね。今年から色団ごとにお揃いの色Tシャツを着ているためか、いつも以上にみなさんから団結力を感じます。優勝を目指して、どの団も頑張ってください。

体育大会が終わると、次は三者面談。3年生はもちろん1、2年生も進路について考える時期だと思います。図書館では、みなさんが調べやすいように「進路」という棚を常設して進学や職業に関する本を1つの場所にまとめて置いています。自分の将来を考え始めると、迷うこと、悩むことがたくさん出てくるとと思いますが、そんな時には、進路指導室だけでなく図書館も活用してください。過去の赤本も図書館で保管しています。

関東もこれから梅雨入りとなり、休日も室内で過ごすことが多くなるかもしれません。そんな時こそ、読書を楽しむチャンス。図書館で自分好みの本を探すのもよし、先生方からおすすめの本を教えていただくのもよし、梅雨にちなんで雨の名前や気象に関する本を読むのもよし、どんどん読んでください。

*なりたい自分を見つける

366-ジ『女性の仕事全ガイド』 成美堂出版

将来、何になりたいかを考え始めた時、まずはこの本を手にとって、世の中にはどんな職業があるのかを知ってみませんか。働く女性の環境は昔と比べ、大きく変化しました。選択肢が増え、キャリアアップを目指す女性も増えています。この本では、ジャンルごとに職業がまとめられて紹介しており、必要な資格、仕事内容、どんな人に向いているか、就職の状況など知りたい情報がコンパクトにまとめられています。その他、自分に合った仕事の見つけ方、女性が活躍し始めている注目の仕事の特集として載っています。自分の性格や理想とする働き方と照らし合わせて、なりたい仕事を見つけていきましょう。

*鈴木信晃先生のおすすめ

913.6-キ『手紙屋 蛍雪編』 喜多川 泰 || 著 ディスカバー・トゥエンティワン

「なぜ勉強しなきゃいけないの」こんな質問をよく受けるが、まだ納得のいく答えを出したことがない。今、先生という職業に就いてみんなと接していると「なぜ勉強しなきゃいけないの」という問いを毎日突き付けられている気がする。そんな時に会ったのがこの『手紙屋』だった。世の学生が悩み苦しむ勉強。「勉強=義務」で辛いものだと思いがちだが、実は勉強が辛いと思うのは、勉強の本来の目的を知らなかっただけだったと『手紙屋』が教えてくれた。勉強が嫌い、志望校が決まらない、将来何がしたいかわからない、そんな受験生必読の一冊。勉強に対する考え方が変わる瞬間を体験してみない？



日本茶を楽しむ

新茶の季節がやってきました。お茶屋さんの前には「新茶」ののぼり旗がはためき、通りすがりに漂ってくるお茶の優しい香りが心をホッとさせてくれます。ここ狭山市では、静岡茶、宇治茶と並んで「日本三大茶」と呼ばれている狭山茶が生産されています。そんなお茶どころ近辺で暮らすみなさんは普段から馴染み深くお茶を飲んでいるのではないのでしょうか。そこで今回はお茶をもっとおいしく、楽しく、飲める本を紹介したいなと思います。

619-ニ『日本茶の図鑑』 マイナビ

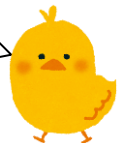
日本茶とひとこと言っても茶葉の種類はいろいろとあります。日本茶の基礎からスタートし、日本全国からピックアップした119種の銘柄について色味や茶葉の形、味わいなど、詳細なデータが載っていて充実した内容となっています。

この本を参考に色々な品種のお茶を飲み比べて香りや味の違いを感じ、お茶の世界を深く楽しんでみてはいかがでしょうか。「^{まんよう}萬葉の昔」、「^{ゆうが}湧雅のこちち」、「かいもんみどり」など、個性豊かなお茶の銘柄を知るのもおもしろいです。

併せて、この2冊もおすすめ

596.6-ヤ『彩り和菓子』 山崎 彩 || 著 河出書房新社 ★和菓子のレシピ本★

619-ケ『お抹茶のすべて』 誠文堂新光社 ★基本からおいしい戴き方まで★



6月は図書館がアツい

6月の図書館はイベントが盛りだくさん！みなさんの参加をお待ちしています。

6月15日(木) おはなし会

秋草のおはなし会は、高校生に楽しんで聞いてもらえる作品を選び、発表しています。絵本の読み聞かせはもちろんのこと、文学作品の朗読や群読、戯曲など毎年、趣向を凝らし、様々な作品に挑戦しています。今回は『ハムレット』『鹿鳴館』などの戯曲を朗読する他、群読では『江戸バカ囃子』をお送りします。その他、懐かしい気持ちになれる絵本『ぐりとぐら』『ぼくのくれよん』も楽しんでいってください。

6月20日(火) 読書会

太宰治の『桜桃』について、参加者全員であれこれと語ります。1冊の本について、みんなで感想を共有する楽しさを感じてみませんか。読書友だちがほしいと思っている人にもおすすめです。

6月22日(木) 映写会

『植物図鑑』(原作:有川浩)を上映します。桔梗ホールの大スクリーンで学校にいながら映画館気分になります。図書館に原作本がありますので、観る前や観終わった後に読んでみてください。

日本の誇れる文豪たち～絶賛活躍！現代作家編～

『日本の誇れる文豪』の二人目は森見登美彦さんです。先月公開されたアニメーション映画『夜は短し恋せよ乙女』は主人公の声を星野源が務めたことでも話題になっていましたが、この原作者が森見さんです。2017年本屋大賞にも『夜行』がノミネートされ、話題にのぼることも多かったですから、森見登美彦という名を知る人もここ最近でまた増えたのではないのでしょうか。



そんな森見さんは2003年京都大学に在学中執筆した『太陽の塔』で第15回「日本ファンタジーノベル大賞」を受賞し、小説家デビューを果たします。『太陽の塔』、『夜は短し歩けよ乙女』、『四畳半神話体系』など大学時代を過ごした地でもある京都を舞台とした小説を多く書いており、その中では森見ワールドと呼ばれる独特の世界観が展開されています。森見さんならではの言い回しや個性の強い登場人物たちの物語は、一度ハマってしまうと、やみつきになる魅力があります。

*今までで一番書きたかった渾身作 ～いつでも京都は狸と天狗と人間が三つ巴～ 913.6-モ『有頂天家族』 森見 登美彦 || 著 幻冬舎

京都 下鴨神社境内の糺の森で暮らす下鴨家の狸たち。今は亡き偉大な父の血を受け継いだはずの四兄弟は、いざという時にめっぽう弱い長男、蛙に化け井戸に引きこもったままの二男、おもしろければよいのだ主義の三男、すぐに尻尾を出してしまう気弱な末っ子、と世間から見たら「ちょっと無念な子どもたち」だった。そんな世間の声に負けじと奮闘するのは長男ばかり、他はどこ吹く風、マイペースに暮らしている。それでも、四人揃って母思いの優しい子たちなのである。そんな四兄弟が因縁の夷川一族との対決、狸鍋を食らう恐ろしい金曜倶楽部との攻防、偽叡山電車の暴走、と賑やかすぎるほど賑やかに天狗と人間を巻き込んで京都を駆け巡る。「面白きことはよきことなり！」が何とも似合うよき物語なり。

*2017 本屋大賞ノミネート作品 ～どちらの世界が本当か～ 913.6-モ『夜行』 森見 登美彦 || 著 小学館

僕の声かけで10年ぶりに京都で集まった英会話スクールの仲間たち。いないのは、10年前に鞍馬の火祭で、こつ然と姿を消した長谷川さんだけ。その長谷川さんに似た姿を見かけ、追った先の画廊で出会った岸田道生という画家の『夜行』という銅版画。尾道、伊勢、野辺山、奈良、会津、奥飛騨…と48作に及ぶ連作。その全てに描かれた目も口もない女性。永遠に続くような夜の絵。偶然出会った不思議なその絵の話を待ち合わせたメンバーにすると、全員が何か心当たりのある表情を見せ、ポツリポツリと奇妙な体験を話し始めた。そして、僕もまた火祭の会場で再び奇妙で不思議な体験をすることになる。「夜行」の対となる「曙光」という幻の作品。夜と朝の世界。賑やかな森見作品とは打って変わり、終始、心が波立つ感覚に襲われます。こんな森見さんもお試しあれ。

*森見さんと京都 ～あの名場面たちを巡る旅～

B915-モ『京都ぐるぐる案内』 森見 登美彦 || 著 新潮社

森見さんの作中に登場する名シーンの数々。その中から京都の地での名シーンを抜粋し、京都の名所をあちこち紹介しています。『夜も短し歩けよ乙女』で先輩が黒髪の乙女を追い求める下鴨神社、『恋文の技法』の大団円といえばここ大文字山、『太陽の塔』で私とその仲間たちが在学した京都大学など、森見さんファンにはたまらない名所めぐりの1冊となっています。写真を撮り下ろしているのは京都の写真家サカネユキさん。物語の中にフツと入っていきそうなショットがまたよい雰囲気を出してくれています。京都が好き、という人にもきっと楽しんでもらえるはず。

合間に載せられている森見さんの京都紀行文もおもしろいですし、ここに出てくるまだ読んだことのない森見さんの著書も読んでみたくくなります。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

近藤文恵さんの『タルト・タタンの夢』シリーズが大好きで、第二弾『ヴァン・ショーをあなたに』に続く、第三弾の発売を心待ちにしていました。そして、待つこと8年！新刊『マカロンはマカロン』が出ました。ですが、なんせ8年ぶりなので、まずは『タルト・タタンの夢』(913.6-コ 近藤 文恵 || 著 東京創元社)を再読しました。

ミステリー仕立てのこのシリーズの舞台は『ビストロ・パ・マル』従業員が4人の小さなフレンチレストランですが、三舟シェフと志村さんの作る絶品料理のおかげで連日繁盛しています。しかし、店がお客さんから愛されているのは料理がおいしいという理由だけではありません。お客さんたちが抱えた色々な悩みを小さなヒント(料理にまつわることです)から三舟シェフが解消してくれるのです。お腹だけでなく、心も満たしてくれる素敵なお店で、「こんなお店が近くにあったらぜひ行ってみたい！」とやっぱり今回も思うのでした。本当に出てくる料理がどれもおいしそうすぎる！【今井】



『美しい星』(B913.6-ミ 三島由紀夫 || 著)を読みました。5月26日公開の映画『美しい星』の原作です。映画は話を現代に置き換えた大胆な脚色と宣伝しているので、原作とはだいぶ違っているかもしれませんが、三島由紀夫のSF作品です。もう一度言いますが、SF(サイエンスフィクション)です。ちょっと、不思議な気がしませんか？歴史的にも有名な硬派な事件を起こし、ノーベル文学賞の候補にも挙がった三島さんがSF作品も書いていたなんて。しかも主人公一家が住むのは私たちにあって身近な飯能市です。西武線だとか天覧山(羅漢山)がでてきて、高麗峠の方角から空飛ぶ円盤がやってくるなんて、読んでいて妙な気持ちになりました。飯能の山の頂上なら星もきれいに見えるだろうし、うっかりしたら本当に謎の飛行物体だって見えるかもしれません。ちょっと試してみたい気になります。今どきのSFから考えればサイエンスの部分で物足りないものはありますが、その分表現の豊かさに圧倒されます。地球は美しいのです。それだけに主人公一家が地球人に残した言葉「何とかやってくさ、人間は」に、突き放した意味はなく、むしろ願いや祈りを強く感じました。何とかやっつけていかなければならないですね、何事も【鈴木】